



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年1月30日

上場会社名 日本軽金属ホールディングス株式会社 上場取引所 東  
コード番号 5703 URL <https://www.nikkeikinholdings.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岡本 一郎  
問合せ先責任者 (役職名) 企画統括室 広報・IR担当 (氏名) 石川 千津 TEL 03-6810-7160  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：有（機関投資家及びアナリスト向け）

（百万円未満四捨五入）

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期第3四半期	427,065	5.7	18,600	20.2	16,924	13.8	11,479	20.8
2025年3月期第3四半期	403,956	4.2	15,473	22.2	14,870	11.6	9,506	73.2

（注）包括利益 2026年3月期第3四半期 15,180百万円（27.8％） 2025年3月期第3四半期 11,882百万円（26.1％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	186.49	—
2025年3月期第3四半期	153.47	—

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年3月期第3四半期	569,467	260,746	42.5
2025年3月期	544,307	250,481	42.8

（参考）自己資本 2026年3月期第3四半期 242,102百万円 2025年3月期 233,131百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	20.00	—	50.00	70.00
2026年3月期	—	25.00	—		
2026年3月期（予想）				55.00	80.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	590,000	7.2	23,000	5.8	21,000	6.1	15,000	21.2	243.69

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無  
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期3Q	61,993,750株	2025年3月期	61,993,750株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	400,832株	2025年3月期	483,631株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年3月期3Q	61,553,021株	2025年3月期3Q	61,939,485株

(注) 当社は取締役等に対する株式報酬制度を導入しており、当該制度のために設定した株式交付信託が保有する当社株式を、期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式数に含めて記載しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P3「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

	ページ
1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書 .....	7
四半期連結包括利益計算書 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	9
(セグメント情報等の注記) .....	10

## 1. 経営成績等の概況

## (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間は、国内経済は緩やかな回復基調が続いているものの、不安定な国際情勢、中国経済の減速、米国の関税政策の動向など依然として先行き不透明な状況が続いています。

当社グループにおきましては、販売面では、軽圧事業グループの板部門や押出部門における半導体製造装置向けの需要回復遅れによる停滞が継続し、メタル事業グループの二次合金部門は国内の自動車向けが低調であったものの米国では堅調に推移しました。輸送機器事業グループのトラック架装や自動車部品事業グループは前年同期より大きく回復し、化成品事業グループの化成品部門および箔事業グループのパウダー・ペースト部門での放熱向けや板部門のリチウムイオン電池向け板材が好調だったことから、売上高は前年同期を上回りました。採算面では、加工製品、関連事業セグメントが大きく改善し、箔、粉末製品セグメントも前年同期を上回る利益となりました。アルミナ・化成品、地金セグメントや板、押出製品セグメントではアルミニウム地金市況を反映したコスト上昇の影響があったものの、販売価格の改定効果もあり、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期を上回りました。

連結経営成績

(単位：百万円)

	2026年3月期 第3四半期累計期間	2025年3月期 第3四半期累計期間	比較増減 (△印減少)
売上高	427,065	403,956	+23,109 (+5.7%)
営業利益	18,600	15,473	+3,127 (+20.2%)
経常利益	16,924	14,870	+2,054 (+13.8%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	11,479	9,506	+1,973 (+20.8%)

セグメント別業績

(単位：百万円)

セグメント	売上高 (前年同相比)			営業利益 (前年同相比)		
アルミナ・化成品、地金	133,906	(+10,912)	+8.9%	8,765	(△1,218)	△12.2%
板、押出製品	82,049	(+4,797)	+6.2%	3,355	(△823)	△19.7%
加工製品、関連事業	125,901	(+4,427)	+3.6%	2,580	(+4,048)	—
箔、粉末製品	85,209	(+2,973)	+3.6%	6,377	(+821)	+14.8%
消去または全社	—	—	—	△2,477	(+299)	—
合計	427,065	(+23,109)	+5.7%	18,600	(+3,127)	+20.2%

各セグメント別の概況は次のとおりです。

## 【アルミナ・化成品、地金】

化成品事業グループの化成品部門は、主力の水酸化アルミニウムおよびアルミナでは放熱難燃フィラー向けの好調継続などで前年同期を上回り、化学品では無機塩化物の低迷が続いているものの、原料コスト上昇に対する販売価格改定による増収もあり、売上高は前年同期を上回りました。採算面では販売増と販売価格の改定効果などにより、営業利益は前年同期を上回りました。

メタル事業グループにおきましては、主力の自動車向け二次合金部門は、国内は自動車生産の低調により前年同期並の販売となった一方、海外は中国の低調が続いているものの、米国は販売環境好調が継続、タイは厳しい市場環境下でも販売量が増加しました。また、2024年に操業開始したインドは本格稼働が寄与し、売上高は前年同期を上回りました。採算面では、二次合金部門が増益となった一方、アルミニウム地金市況変動による減益影響などにより、営業利益は前年同期を下回りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のアルミナ・化成品、地金セグメントの売上高は前年同期の1,229億94百万円に比べ109億12百万円(8.9%)増の1,339億6百万円となりました。営業利益は前年同期の99億83百万円から12億18百万円(12.2%)減の87億65百万円となりました。

## 【板、押出製品】

軽圧事業グループにおきましては、板部門は、半導体製造装置向けの需要回復が先送りとなっているものの、リチウムイオン電池ケース向け板材の好調やアルミニウム地金市況を反映した販売価格の上昇により、売上高は前年

同期を上回りました。採算面では、リチウムイオン電池ケース向け板材の販売増や加工賃の改定効果が寄与したものの、半導体製造装置向け販売の減少やアルミニウム地金市況を反映したコスト上昇の影響により、営業利益は前年同期を下回りました。

押出部門は、半導体製造装置向け回復が遅れているものの、トラック架装向けの販売が堅調に推移したことに加え、アルミニウム地金市況を反映した販売価格の上昇により、売上高は前年同期を上回りました。採算面では、加工賃の改定効果があったものの、半導体製造装置向け販売の減少に加えアルミニウム地金市況を反映したコスト上昇の影響もあり、営業利益は前年同期を下回りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の板、押出製品セグメントの売上高は前年同期の772億52百万円に比べ47億97百万円(6.2%)増の820億49百万円となりました。営業利益は前年同期の41億78百万円から8億23百万円(19.7%)減の33億55百万円となりました。

#### 【加工製品、関連事業】

輸送機器事業グループのトラック架装は、販売台数は前年同期と比べてやや減少したものの、販売価格改定の効果発現により、売上高は前年同期を上回りました。採算面でも販売価格改定効果とアフターサービスの増加により、営業利益は前年同期より大きく上回りました。

自動車部品事業グループにおきましては、販売面では、国内において自動車生産量の持ち直しに加え、新規案件の上市や新商品の増加により、売上高は前年同期を上回りました。採算面では増販、品種構成の改善、生産性改善、販売価格の適正化により前年同期より大きく改善しました。

エンジニアリング事業グループのパネルシステム部門は、冷凍・冷蔵分野では食品工場や低温流通倉庫の物流拠点増設、老朽化による更新に加え、スーパーマーケットやコンビニエンスストアの既存店改装需要が継続しており、建設費高騰や人手不足による工期遅れの影響が続いている中で売上高は前年同期を上回りました。一方、クリーンルーム分野は半導体関連の需要は継続しているものの、前年度の大規模物件の受注に対する反動減により売上高は前年同期を下回りました。部門全体の売上高は前年同期を上回りましたが、採算面では大規模物件の減少の影響および労務費などコスト上昇の影響などもあり、営業利益は前年同期並となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の加工製品、関連事業セグメントの売上高は前年同期の1,214億74百万円に比べ44億27百万円(3.6%)増の1,259億1百万円となりました。営業損益は前年同期の14億68百万円の損失から40億48百万円改善し25億80百万円の利益となりました。

#### 【箔、粉末製品】

箔事業グループの箔部門は、リチウムイオン電池外装用箔は車載用が第3四半期に入り調整局面となり、医薬包材向け加工箔の販売が前年同期を下回ったものの、販売価格がアルミニウム地金市況の反映や加工賃の改定で上昇したことにより部門全体の売上高は前年同期を上回りました。

パウダー・ペースト部門は、パウダー製品は、放熱用途の電子材アルミパウダーや窒化アルミの販売が好調に推移しました。ペースト製品は、主力の自動車塗料向けが国内では自動車生産の低調で減少した一方、海外では中国をはじめ北米や東南アジア向けの販売が伸び、部門全体の売上高は前年同期を上回りました。

日用品部門は、コンシューマー向けはハウスクエア商品の販売は伸長しているものの、アルミホイルなどの食品向けが販売価格改定後の減販影響により前年同期を下回りました。一方で、パッケージ用品向けは冷凍食品向けのアルミ容器や紙容器の販売が堅調に推移したことに加え原価高騰に対する販売価格改定効果もあり、部門全体の売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の箔、粉末製品セグメントの売上高は前年同期の822億36百万円に比べ29億73百万円(3.6%)増の852億9百万円となりました。営業利益は前年同期の55億56百万円から8億21百万円(14.8%)増の63億77百万円となりました。

### (2) 当四半期の財政状態の概況

#### 資産、負債、純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金の増加などにより、前連結会計年度末と比べて251億60百万円増の5,694億67百万円となりました。負債は、長期借入金金の増加などにより、前連結会計年度末と比べて148億95百万円増の3,087億21百万円となりました。純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末と比べて102億65百万円増の2,607億46百万円となりました。なお、自己資本比率は前連結会計年度末の42.8%から42.5%となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の連結業績予想につきましては、2025年5月15日における公表値を据え置いております。

当第3四半期連結累計期間における当社業績は順調に進捗しておりますが、第4四半期につきましては、不安定

な国際情勢や地政学リスクなど依然として不確実性の高い状況にあり、自動車や半導体関連などの市場動向に注視が必要な状況が続いていることも踏まえ、通期の連結業績予想は据え置きとしました。

(注) 業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき算出したものであり、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	34,707	49,558
受取手形、売掛金及び契約資産	151,357	153,506
商品及び製品	47,349	49,858
仕掛品	24,256	26,657
原材料及び貯蔵品	32,848	35,045
その他	14,610	15,113
貸倒引当金	△269	△279
流動資産合計	304,858	329,458
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	60,586	61,313
機械装置及び運搬具（純額）	46,839	46,703
工具、器具及び備品（純額）	5,576	5,829
土地	56,052	56,222
建設仮勘定	8,284	8,503
有形固定資産合計	177,337	178,570
無形固定資産		
のれん	1,150	958
その他	10,003	9,367
無形固定資産合計	11,153	10,325
投資その他の資産		
その他	51,482	51,623
貸倒引当金	△523	△509
投資その他の資産合計	50,959	51,114
固定資産合計	239,449	240,009
資産合計	544,307	569,467

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	62,380	66,280
短期借入金	82,313	66,016
未払法人税等	3,775	2,541
その他	38,060	33,917
流動負債合計	186,528	168,754
固定負債		
社債	897	939
長期借入金	85,618	117,493
退職給付に係る負債	14,186	14,620
その他	6,597	6,915
固定負債合計	107,298	139,967
負債合計	293,826	308,721
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	46,525	46,525
資本剰余金	19,047	19,595
利益剰余金	148,321	155,089
自己株式	△762	△631
株主資本合計	213,131	220,578
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,264	7,083
繰延ヘッジ損益	△30	147
土地再評価差額金	145	145
為替換算調整勘定	9,616	10,733
退職給付に係る調整累計額	4,005	3,416
その他の包括利益累計額合計	20,000	21,524
非支配株主持分	17,350	18,644
純資産合計	250,481	260,746
負債純資産合計	544,307	569,467

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	403,956	427,065
売上原価	333,881	352,368
売上総利益	70,075	74,697
販売費及び一般管理費	54,602	56,097
営業利益	15,473	18,600
営業外収益		
受取賃貸料	519	495
その他	2,414	1,832
営業外収益合計	2,933	2,327
営業外費用		
支払利息	1,293	1,647
その他	2,243	2,356
営業外費用合計	3,536	4,003
経常利益	14,870	16,924
特別利益		
投資有価証券売却益	1,059	2,727
特別利益合計	1,059	2,727
税金等調整前四半期純利益	15,929	19,651
法人税、住民税及び事業税	3,747	5,334
法人税等調整額	1,487	1,030
法人税等合計	5,234	6,364
四半期純利益	10,695	13,287
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,189	1,808
親会社株主に帰属する四半期純利益	9,506	11,479

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	10,695	13,287
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	43	798
繰延ヘッジ損益	10	174
為替換算調整勘定	1,544	1,595
退職給付に係る調整額	△302	△625
持分法適用会社に対する持分相当額	△108	△49
その他の包括利益合計	1,187	1,893
四半期包括利益	11,882	15,180
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,464	13,003
非支配株主に係る四半期包括利益	1,418	2,177

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	15,436百万円	15,230百万円
のれんの償却額	199	187

(セグメント情報等の注記)

## I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アルミナ・ 化成品、 地金	板、 押出製品	加工製品、 関連事業	箔、 粉末製品	計		
売上高							
外部顧客への売上高	122,994	77,252	121,474	82,236	403,956	—	403,956
セグメント間の内部売上高 又は振替高	59,766	39,675	11,879	201	111,521	△111,521	—
計	182,760	116,927	133,353	82,437	515,477	△111,521	403,956
セグメント利益又は損失 (△)	9,983	4,178	△1,468	5,556	18,249	△2,776	15,473

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,776百万円は全社費用であります。その主なものは当社及び日本軽金属㈱の本社の総務、人事、経理等の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アルミナ・ 化成品、 地金	板、 押出製品	加工製品、 関連事業	箔、 粉末製品	計		
売上高							
外部顧客への売上高	133,906	82,049	125,901	85,209	427,065	—	427,065
セグメント間の内部売上高 又は振替高	62,806	40,628	15,724	243	119,401	△119,401	—
計	196,712	122,677	141,625	85,452	546,466	△119,401	427,065
セグメント利益	8,765	3,355	2,580	6,377	21,077	△2,477	18,600

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,477百万円は全社費用であります。その主なものは当社及び日本軽金属㈱の本社の総務、人事、経理等の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。